

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和3年度取組結果】

団体名	公益財団法人 北九州産業学術推進機構
-----	--------------------

所管課	産業経済局 次世代産業推進課
-----	----------------

団体に対するミッション
①北九州学術研究都市の研究開発拠点化を推進する。 ②産学連携による技術力の強化と新事業創出を推進する。 ③企業活動の生産性向上を推進する。 ④ICT産業の振興と地域ICT関連企業等の集積を促進する。 ⑤中小企業の経営支援と創業を促進する。

行財政改革大綱における見直し内容
これまでの取組みや成果について、評価・検証の上、今後とも本市の産業振興の原動力として同団体に求める役割を整理する。さらに、この役割を達成するために取り組むべき事業や組織体制について、必要に応じ有識者等の意見も踏まえながら、精査・検討する。 また、この検討の中で、九州ヒューマンメディア創造センターとの統合についても検討していく。

ミッションに基づく中期計画

3~5年後に目指す状態	九州ヒューマンメディア創造センターとの統合により、それぞれの強みを融合させ、企業のロボットやIoTの活用等による革新的生産性向上に向けた支援等を行うことにより、自らものづくりの変革や価値の創造に取り組むような中小企業を増やしていく。							
主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H29 実績	H30 実績	R1 実績	R2 実績	R3 目標 実績		R4 目標	R5 目標
産学連携施設の入居率	70%	73%	74%	69%	75%	73%		
事業化金額	50.8億円	49.1億円	110.9億円	190.7億円	110.0億円	219.2億		
革新的生産性向上企業数（累計）	1件	12件	13件	16件	24件	19件		
新ビジネス（情報産業）創出数	0件	4件	4件	1件	2件	1件		
窓口相談等の課題解決件数（知財含む）	404件	536件	434件	480件	480件	1,419件		

ミッションの遂行状況の評価（令和3年度）

団体における評価 コロナ禍が続く中、引き続き自立できる産業づくりに向け人材育成や研究開発、事業化への支援を実施した。特に地元企業等のDXを推進するため、「北九州デジタル化サポートセンター」を運営し、市の施策と連携しながら、地域のデジタル化を促進した。また、コロナ禍の長期化で資金繰りが厳しくなった中小企業からの相談に対応するため、窓口・巡回相談体制の充実・強化を行った。その結果、目標値は下回るものの、ほとんどの項目で前年度を上回り、おおむね目標を達成した。	市の評価 前年に引き続き、コロナ禍の中においても主な成果指標である事業化金額や窓口相談等の課題解決件数などが目標及びコロナ禍前の実績を上回っており、概ね目標は達成したと思われる。
今後の課題及び見直し内容（案） 地域の中小企業の生産性向上に向けて、ロボット導入やDX推進をワンストップで支援する『北九州市 ロボット・DX推進センター（R4年4月開設）』の利用促進に取り組む。また、重点分野の整理や今後のニーズを踏まえ、R5年度からの次期中期計画を策定する。	団体への改善指導内容（案） コロナ禍が続いている中ではあるが、未達成の成果指標もあるため、中期計画目標に基づき次号を着実に実施し、各指標を達成できるよう指導する。

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況

見直しの分類	統合を検討する団体 特に事業内容を精査する団体
1 統合の検討について 平成30年4月1日付でFAISとHMCは統合した。 2 特に事業内容を精査する団体 FAISとHMCの統合により、ものづくり分野などに関して企業や大学等有するシーズ等に精通したFAISと、情報通信分野で優位性を持つHMCのそれぞれの強みを融合し、ロボットやIoTの活用等による地域企業の生産性向上に向けた支援など、統合による相乗効果を活かした事業に取り組んでいく。	